

況を示して、その鍾幅が1m、延長が4mで、N 50° Eの方向に延びている。表土に埋没して規模が明らかでない。以下この鉱床を烏帽子鉱体と云う事にする。その他の露頭は珪質度が高かつたり。酸化やけの域を出なかつたりしている小規模のものである。

〔裏山の鉱床〕

この地域には7つの露頭が散在している。西端の露頭のみが未開発で、他の6露頭は採掘済である。裏山の谷の北側の2露頭が規模が大きくて、その採掘跡より推定すれば、延長26m、鍾幅2m及び延長48m、鍾幅3mであつて、何れも深さは5m以下である。概してその西端が北に急曲して消滅している。西端の鉱床(裏山鉱体と呼ぶことにする)はN 70° Eの方向に延び、その露頭の規模は延長17m、鍾幅2.5m、傾斜延長3mである。

7. 鑛石及び品位

鉱石を構成する主なマンガン鉱物はバラ輝石・テフロ石で、菱マンガン鉱が相当少いようであり、その外に局部的にマンガン柘榴石が存在する。鉱床の上部の酸化鉱は軟マンガン鉱・硬マンガン鉱・水マンガン鉱等よりなる。脈石としては石英が主で、その外に方解石・黄鉄鉱・角閃石等が見られる。

鉱石は菱マンガン鉱割合に少いために珪酸分が比較的高く、テフロ石が存在するためにMnが少々高くなり、Mn 40%近くになる事がある。

553.32.065 : 550.8 (521.62) : 622.19

愛知縣共栄鉱山マンガン鉱床調査報告

宮本 弘 道\*

Résumé

On Manganese Ore Deposits at Kyo-ei Mine, Aichi Prefecture.

by

Hiromichi Miyamoto

There are manganese ore deposits which have been replaced through hydrothermal activity in quartz schists at the Kyō-ei mine. The ores consist chiefly of manganese silicates (tephroite and rhodonite etc.) and rhodochrosite. The deposits can not give promise of both abundant reserves and high grade ores.

\* 鑛床部  
地質月報 第1巻 第5號

8. 現況

調査当時の本鉱山の現況は下に示される。

- (1) 稼行鉱床数 1, 稼行坑道数 1, 切羽数 1 手掘
- (2) 選 鉱

採掘鉱石→破 碎→手選→	酸化鉱	Mn 41~42% SiO <sub>2</sub> 17%
		Mn 40%以下
	珪酸鉱	A. Mn 37~39% SiO <sub>2</sub> 27~28%
B. Mn 34~36% SiO <sub>2</sub> 30%±		
C. Mn 29~31% SiO <sub>2</sub> 35%		
廢石		

- (3) 特別設備 簡易索道 延長 175 m

- (4) 勞務者

坑内夫	5
坑外夫	8
選 鉱 婦	6

- (5) 月産 100 t

9. 結 論

源助鉱体の底部及び東延長部の鍾押探鉱は積極的に行わねばならぬが、何れも附近の地質より推定してあまり期待がもたれない。烏帽子鉱体については一應剝土による探査が考えられるが、著しい鉱量の増加は期待薄のようである。裏山鉱体を開発しても、相当多量の鉱量を望む事は無理でもあり、他方搬出の便が悪く開発の障害となつているから、鉱量相当増加せぬ限りは開発困難と考える。(昭和25年3月調査)

要 旨

昭和25年3月17日1日間愛知縣北設樂郡名倉村共栄鉱山のマンガン鉱床を調査した。本鉱山のマンガン鉱床は石英片岩を母岩とする熱水性の交代鉱床である。鉱石を構成するマンガン鉱物としてはバラ輝石が多く、菱マンガン鉱、マンガン柘榴石等が随伴している。最も鉱化状況の優勢なのは中の鉱体で見込平均品位Mn 30%のもの160tが推定されて、深さ5m以上を期待する事は無理のようである。其他の露頭については更に期待薄である。

1. 鑛 區

登録鉱区番号 愛知縣試掘 1871

鉱 種 マンガン

鉱業権者 愛知縣幡豆郡西尾町高島 柴田兵治

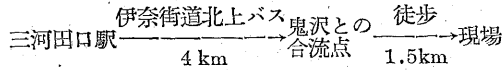
## 2. 位置及び交通

現場の位置

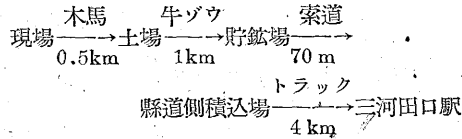
愛知県北設楽郡名倉村川向字鬼沢

(田口鉄道三河田口駅の北方約4kmの位置にある)

現場に至る径路



現場よりの搬出径路



## 3. 沿革

昭和24年9月現鉱業権者によつて始めて鉱区が設定され、同年10月に事業に着手して、現在に及んでいる。

## 4. 地形及び地質

本地域は境川の支流鬼沢の西岸にあつて、各斜面比較的急であつて、谷狭く平坦地が少い。

本地域の地質は領家片麻岩類・石英斑岩様岩石・石英脈よりなる。後二者は前者を貫いている。片麻岩類の走向はN50~60°E、傾斜はN50~70°であつて、N10°E及びN30°Eの方向に走る断層がある。

## 5. 鑛床

本地域の鉱床は雲母片岩の薄層を伴う石英片岩を母岩とする熱水性の交代鉱床である。その母岩は珪化作用を受けている。N50°Eの方向に延長62mに亘つて3鉱体の露頭がある。最東部の露頭は石英質の部分が大部分を占めて鉱化状況劣勢で、その西端はN10°Eの方向の断層によつて切られている。延長20mの中露頭は走向N50~60°E、傾斜N60°であつて、その東の部

分は殆んど石英よりなつていて、残りの部分が稍々鉱化作用が進んでいて、N30°Eの方向に延びる粘土脈によつて貫かれている。最も鉱化作用の優勢な部分は中央の長さ8m、幅3mの部分であるが、その深さは5mに達しないであろう。西端の露頭はN30°Eの方向に走る断層の北側にあつて、長さ6mの坑道により探鉱されているが、5m足らずの延長と約3mの鑛幅を持つ鉱体と推定される。

## 6. 鑛石及び品位

鉱石をつくる主なマンガン鉱物はバラ輝石で、菱マンガン鉱・テフロ石・マンガン柘榴石等を伴っている。脈石として石英が主で、僅かに方解石細脈と黄鉄鉱の小粒とが認められる。従つて珪酸含有率高く平均して50%近くと見込まれるが、テフロ石が加わつている関係上、Mn含有率は割合に高く、平均して30%程度と推定される。

## 7. 現況

調査当時の本鉱山の現況は下に示される。

- (1) 稼行鉱床数...2 稼行坑道数...1 切羽数...2 手掘
- (2) 選 鉱 雑石取捨の程度
- (3) 特別設備 索道 70 m
- (4) 労務者 坑夫 5
- (5) 月 産 3 t

## 8. 結 論

本地域の鉱床は何れも深さ浅く5mに達するものはないであろう。中の鉱体は一應は下部状況を明かにする事が考えられるが、期待をおく事が出来ぬ。西の鉱体は鑛押探鉱を行うべきであるが、5m以上の延長を考える事が無理であろう。東の露頭は全く稼行に値しないものとする。 (昭和25年3月調査)

553.981 : 550.646 (521.61)

## 静岡縣清水市内天然ガス調査報告

牧野登喜男\* 牧 眞 一\*\*

Résumé

Natural Gas in the Gas-field of Shimizu City, Shizuoka Prefecture.

by

Tokio Makino & Shin'ichi Maki

The writers have practiced geochemical

researches on the subterranean water stratum (at the depth of 40 m) along the river Tomoe with the result that there is a large quantity of natural gas around Shimizu City. The gas-bearing area along the river will be considered to be an object of undertaking for gas mining, if the core-drill at Ejiridai-machi show a favourable result.

\* 燃料部 \*\* 技術部  
地質月報 第1巻 第5號